

埼玉膝・スポーツ医学研究会 抄録

12月13日(土) 埼玉県民健康センター(浦和)

テーマ：“ラグビー競技における外傷の特徴とチームドクターサポートの実際”

順天堂大学整形外科・スポーツ診療科

高澤祐治

要旨：

ラグビーは球技、格闘技的な要素を複合した競技であり、様々な外傷が発生する。この競技では、時に重篤な外傷が発生する可能性もあることから、安全対策の観点からしばしばルール変更が行われてきた。近年、体格や競技スタイルの変化に伴い、頭頸部・顔面外傷の発生率が増加傾向にある。また、2019年のワールドカップ日本開催時には24時間対応できる医療体制の整備が必要であり、脳神経外科や形成外科、歯科医との連携も不可欠である。演者は、高校生からトップリーグまで、今日までチームドクターとしてサポートする機会に恵まれ、チーム作りに携わってきた。チームドクターとしての大きな使命は、診察室の中で医師を満足させることでなく、積極的にスポーツ現場へ足を運び、医師としての経験や知識をチームや選手のために還元することであると考えている。

本講演では、ラグビー競技におけるチームドクターサポートの実際、外傷の特徴、今後の課題などについて紹介する。